

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200222		
法人名	株式会社 ケアイノベーション		
事業所名	グループホーム ひなた日和		
所在地	栃木県足利市本城1丁目1578-1		
自己評価作成日	平成31年1月9日	評価結果市町村受理日	平成31年4月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成31年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひなた日和の掲げる理念の「生きがいと尊厳のある自立した生活と自己決定」ができるよう、また皆様の「笑顔」がみられるよう、日々ご入居様とともに生活を送っています。ご入居様の様々な要望を叶えられることができるように、また、ひなた日和が入居してよかった。と思っていただけようスタッフ一同研鑽を重ねあっています。地域の方々に気軽に立ち寄りいただけるようななかかわりが持てるよう今後も環境を築いていきます。
ひなた日和が今まで以上に、ご入居様、ご家族様、地域に浸透できるよう、風通しの良いゆったりとした環境の提供を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

室内は木材を生かした造りで木の温もりが感じられる。リビングはいつでも利用者の動きを掌握できるよう見通しの良い造りになっている。職員は事業所理念の下、利用者の思いを大切に、笑顔で楽しく過ごせるよう支援しており、一緒に歌を歌ったりパズルをするなど、利用者の機能維持や明るい雰囲気づくりに努めている。自治会や地域の諸行事への積極的な参加のほか、子供神輿や歌・演奏等のボランティアの受け入れなど、地域との交流に努めている。年間の計画を立て、お花見や公園、道の駅、いちご園等、利用者の希望に沿えるよう外出支援に努めている。管理者と職員は意思疎通が図られており、職員同士も仲良くよりよいケアに励んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所とホール間の掲示板に理念、職員像を掲げ実践に繋げていけるよう努め、職員は理念を共有し日々の生活の中で信頼関係を築いていけるよう実践している。	掲示板に理念を掲げ、会議等において周知を図っている。職員は利用者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築き、それぞれの思いに添えるよう理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し夏には子ども神輿が来所し休憩場所の提供をしている。近隣施設の行事の際には回覧板を回して頂き参加し地域の方々との交流を図っている。	自治会に加入しており、夏祭り等の行事に参加したり、回覧板を活用し事業所の状況を伝えている。近くの神社や特別養護老人ホームの行事にも参加し、夏祭りに子供神輿が来所したり、歌や演奏等のボランティアの訪問があるなど、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や地域の方から認知症の人の理解や接し方の相談を受けた場合、助言等をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し利用者の動向、活動状況、事業報告のほか、他業種の方への参加への呼びかけを行い意見交換しサービス向上につなげている。	自治会長・民生委員・利用者・家族・市担当者・地域包括支援センター職員等の参加により開催している。自治会長や民生委員からは地域の状況を、地域包括支援センター職員からは介護福祉情報等の提供があり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないこと、確認したいことがある際には連絡を取り協力関係が築けるよう努めている。	市担当者には運営推進会議に毎回出席してもらい、意見や情報提供を受けている。必要に応じ事業所の状況を報告したり、相談等にはアドバイスを受けるなど、日頃から協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は安全のため、施錠してあるが天気の良い日など網戸にて見守り対応している。職員は身体拘束しない介護を心掛け、その考えを共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、系列グループでの研修会や職場内研修等により理解を深めている。職員は利用者に対する接遇を良く心得ており、スピーチロック等言葉によるものも含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の日々の状況を把握しちょっとした変化を見逃さないようスタッフ同士声をかけ合い情報共有しまた、職員会議などで話し合いを行っている。職員それぞれもフラストレーションを溜めないよう注意している。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援できるよう学びの場、取り組みが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご本人、ご家族様に説明を行いながら疑問・不安な点を尋ねて理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会・電話があった際には現在の様子を報告しその際、ご家族様の意見・要望を伺い反映できるように努めている。	面会等家族の訪問は多く、その際に利用者の状況を説明し意見や要望を聞いている。これらの意見や要望は日々のケアや介護計画作成等に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議や、申し送り、休憩時間の会話など提案・意見を聞く機会を設け反映できるように努めている。	日常業務の中で職員の提案や意見を聞いており、定例の職員会議でも意見等を聞く機会を設けている。ケアに関することを中心に、行事のアイデアや物品の購入等の提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が心身に負担なく働いていくことができるように配慮し対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や勉強会に参加できるようにスキルアップに繋げている。また職員同士ケアについての話をし互いがスキルアップできるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度の定例会議やグループ全体での研修会や勉強会にて交流を図り、情報交換を行いサービスの向上に努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、在宅・施設へ訪問しご本人の思いを伺い安心してサービスを利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、ご家族様に困っている事、要望、不安を伺い安心して利用していただけるよう信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様にグループホームの特徴を説明し必要とするサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、出来ることはしていただき、出来ないことは無理なく職員とともに行うことで支え合う関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会の際には、日々の状況を伝え、ともに支えていけるような関係を築いていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の関係が途切れないよう支援し、また継続できるように努めている。	友人等の面会のほか、家族と盆・正月に自宅で過ごしたり、お墓参りに出かけたり、ドライブの際には自宅周りやお店等に立ち寄るなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しやり取りに気を配り、時には職員が間に入り良い関係が保てるよう支援している。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても家族との関係を大切にし気軽に相談できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・行動からニーズの把握に努め、職員会議申し送りなどで検討し希望に添えるよう努めている。	利用者の日々の会話や表情・仕草などから思いや意向の把握に努めている。入浴時での何気ない会話や家族からの情報も大切に、外出や食べたい物等、身近な希望にも添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント資料やご家族様、ご本人からの情報や会話から生活歴の把握をしそのひとに合った場の提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を配置し現状の把握、心身の状態把握に努め気づきがあった際には申し送りや連絡ノートを活用し情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、本人、必要な関係者との話し合い意見アイデアをもとに現状に即した介護計画を作成している。	毎日利用者の状況を良く観察し記録している。本人・家族の要望や、職員・主治医等の意見を反映し、利用者本人が楽しく暮らせるよう配慮しながら介護計画を作成している。見直しは6か月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子がわかるように具体的な記録がされるよう取り組んでいる。変化・気づきがある際には申し送り、連絡ノートを活用し情報共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の状況に配慮し、その時のニーズの把握に努め、臨機応変な対応ができるよう取り組んでいる。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や思いに沿った外出などで暮らしを楽しむことができるように努めている。地域ボランティアを活用しかわりが増やせていけるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望がある場合はかかりつけの医療機関に受診していただいている。特にない場合は協力医療機関である、きねぶちクリニックにて月に1度訪問診療にて支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しているが、利用者の約半数は協力医による月1回の訪問診療を受けている。急変時等、24時間対応できる体制を整えており、受診状況等の情報はメモを活用し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連携をし対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療との情報交換をし、面会時や電話などでも情報交換・相談を密に行い連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の利用者の家族に対して早い段階から本人・ご家族様と話し合いを行い、出来ること・できないことを十分に説明し納得してもらいご家族様・医療関係者とチームで支援している。	重度化した場合等のあり方については利用開始時に本人・家族と話し合いを行い、事業所でできることを説明している。利用者の状況に応じ医療機関等と連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所全体で毎年、消防署指導による救命講習がありスキルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合避難訓練を実施しうち1回は防災会社・消防署指導にて実施している。日中・夜間帯の想定を行っている。	消防署指導の下、消火・避難訓練を年2回実施している。夜間想定や土砂災害想定自主訓練の他、避難方法及び役割の確認、緊急連絡網の整備など、災害に対する備えに努めている。食料等の備蓄も整備している。	地域の協力を推進するため、運営推進会議のメンバーや近隣の住民に訓練の状況を見学してもらう等の取り組みに期待したい。

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちに添った言葉かけをするよう心がけている。事業所全体での接遇研修を行い学んだことを実践している。個人情報記載された書類は事務所内に保管している。	実例を取り上げたグループワーク等、実効のある接遇研修を実施し、日常の支援において実践している。職員は利用者には敬意を持って接し、誇りやプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけに注意し、本人の希望・要望が表出しやすい関係づくりを意識し思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の考えに立ち、職員は各行事やレクリエーション等、参加の言葉かけを行うが本人の希望を尊重し強制はしないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動福祉美容車のサービスを受けている。また地域の理髪店にも出向き支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握している。調理の際、簡単なお手伝いや飲み物カップの下膳など出来ることは一緒に行っている。	食材の購入や調理は職員が行い、利用者の嗜好に配慮した家庭的な食事を心がけている。行事や季節に応じた食事、外食等は利用者の楽しみとなっている。職員は見守りながら一緒に食事し、利用者はお皿拭きや下膳等、できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表を作成し食事量の把握や献立ノートを活用し偏りのない食事提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い必要に応じて一緒に行い口腔内の清潔保持に努めている。義歯は就前に職員管理にて洗浄剤使用し保管している。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンを把握しその人に合ったトイレ誘導や、言葉かけを行い支援している。	排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な声かけや誘導に努めている。リハビリパンツやパッド等利用者個々に合った方法と、夜間はセンサーを設置し見守りにより排泄の自立に向けた支援に努めている。	
tie		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維を含む食事、軽体操や散歩、腹部マッサージ等、個々に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したいという意思を尊重している。入浴予定者は決まっているが入浴希望、排泄時汚してしまった等、臨機応変に対応し支援している。	平均週2～3回入浴しているが、利用者の意思を尊重し、希望に添えるよう臨機応変に対応している。職員との会話や歌などは利用者の楽しみとなっている。浴室や脱衣所は適度な温度が保たれるよう調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じた休息が出来るよう支援している。また就寝時は個人のタイミングに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋や申し送りノートで情報共有し、処方された薬を確認している。毎日確実に服薬できるよう、個々に合った支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に役割を持って生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には施設周辺の散策、1時間程度のドライブを行い馴染みの場所、地区に行き支援している。また本人の希望に添えるよう努めている。	日常的に近隣の散歩や食材の買い出し、外食に出かけている。計画的にお花見、公園や池、道の駅、いちご園等の外出支援を実施している。短時間のドライブで自宅や馴染みの場所に行くなど、希望に添えるよう支援している。	

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族様へ説明し理解を得てお小遣いをお預かりし、希望や必要に応じて使用できるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様・ご家族様の状況により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、不快な思いの無いよう環境整備に努め過ごしやすい室温にしている。季節に添った飾り物を利用者様とともに作成し掲示している。生活感のある居心地の良い場の提供に努めている。	室内は木材を生かした造りで木の温もりが感じられる。リビングは明るく開放感があり、光や温度等も適度に調整されている。壁などには利用者の写真や季節に合った作品を飾り、季節感や生活感を感じさせ、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が気軽に座れるソファや多目的に使用できる畳にて思い思いに過ごせる場の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの物もあるが、使い慣れた物、馴染みのある物、愛着のある物を持ってきていただき居心地良く過ごせていただけよう配慮している。	エアコンやベッド、タンス等が備え付けとなっている。生活必需品は使い慣れた物を持ち込むよう支援しており、利用者それぞれに馴染みのある物や家族の写真、絵や手作りの作品等を配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所、個人の持ち物がわかりやすいように明記するなどして自立を促している。また安全に生活できるよう動線の確保、環境整備に努めている。		